

「つながる」力の大切さ

校長 柏原 奈保

今年の夏休みは、地震、台風、大雨と、自然災害が多くあり、たくさんの方々が被害に遭われました。被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。この学校だよりを読まれている保護者や地域の方々の中にも、辛い思いをされている方がいらっしゃるのではないのでしょうか。皆様の心が少しでも安らぎ、生活が一日も早く穏やかなものになりますことをお祈り申し上げます。私の知り合いも、熊本地震が起きた際、たまたま熊本に出張しており震災に遭遇しました。交通手段がすべて絶たれてしまったために移動することも帰京することもできず、大きな体育館で3日間を過ごしたそうです。そこで過ごす中で、よそ者の自分に声をかけ、水や食料を分けてくれた多くの方々の存在、それがどれほどありがたかったかを語ってくれました。また、様々な方と話をすることで張り詰めた気持ちが和らいだとも話していました。ニュースなどでも、地域で支え合ったり、自分のできることを考え支援を行ったりする人々の姿が多く取り上げられていました。どんなに科学が発達しても、やはり、いざというときには人と人との支え合いが必要になる、人は人とのつながりの中で生きていくのだなと強く感じました。

本校では、子どもたちが互いを認め合い、協力しながら成長していく姿を大切に、「みんなつながる南台」の実現を目指しています。他者と関わり合いながら学びを深めるためのコミュニケーション能力の育成です。単に言葉を交わす力を目指すのではなく、相手の思いや立場を理解し、自分の考えを適切に伝え、互いの違いを尊重しながら関係を築いていく力を求めています。多様な価値観が共存する現代社会において、人々とつながり、他者と協働しながら課題を解決していく力はますます重要になっています。小学生の時期に、この力を育むことは、将来、子ども達が社会で生きていくための素地を形成するという意味で大切です。そのために必要になるのが、「話す」「聴く」そして思いを「伝える」「感じ取る」力です。この力を育てるために、日々の教育活動の中で具体的な取り組みを進めています。国語科だけではなく、様々な学習の中で「相手の意見を聞く」「自分の考えを伝える」「人の話をもとに自分の考えを見直し、深める」といった活動を取り入れています。社会科や理科、生活科や総合的な学習の時間では、グループでの調べ学習や観察、発表を取り入れ、気付いたことを伝え合い、協力して課題に向き合い、解決する経験を積み重ねています。その他にも、学校生活の中では、コミュニケーション能力を育む場面が数多くあります。休み時間の遊びでの声かけ、給食の配膳での協力、清掃活動での役割分担など、日常の一つひとつが「つながる」力を育てる学びの機会です。教職員は、様々な場面で子どもたちの言葉や表情から思いを感じ取り、寄り添いながら、必要な支援を行っています。うまくいかないことが起きた時には、「なぜ、そのような行動をとったのか」「相手はどう感じているのか」「どのようにすれば気持ちが伝わるか」「どうすれば互いに納得できるか」を子どもたちと共に考えるようにしています。

ご家庭でも、お子様の言葉に耳を傾け「話す」「聴く」「伝える」機会を増やしていただくとともに、子どもが思いや考えを受け止めてもらったと感じられる機会を増やしていただけると、コミュニケーション能力の育成につながると考えます。「聞いてもらえた」という実感は、子どもにとって大きな安心感と自信につながります。短い会話でも、その積み重ねが子どもの心を支える力となり、自己肯定感の向上にもつながります。

子どもたちが互いに支え合いながら学びを進め、笑顔で新たな挑戦に向かっていけるよう、教職員一同、教育活動の充実に努めてまいります。本校の教育目標である「みんなつながる」姿の実現に向け、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

